

NRA NEWS No. 8

第3回NRA展示会無事終了

名古屋レール・アーカイブスでは、9月2日（木）から8日（水）までの1週間、「行楽と鉄道の風景」と名付けた展示会を開催しました。

鉄道雑誌での事前告知や開催後の地元新聞各紙での取り上げもあって、鉄道ファンのみならず一般の方々も大勢来場され、その数は900人を超えました。

今回は、テーマに沿った沿線案内図、観光パンフレット、絵葉書、駅弁包装紙、駅のスタンプといった資料を中心として展示としたところ、年配の来場者からは「懐かしい」、若い人からは「新鮮に見える」

「正月の市電・熱田神宮前の人出はすごかったんだ」といった感想が聞かれるなど、好評を得ることができました。また、新旧沿線案内図（路線図）を前に、来場者と会場スタッフが路線の変遷について盛り上がる場面もありました。過去2回の展示会も含めて、来場者と会場スタッフが気軽に交流するこの姿こそが、NRA展示会の特徴であろうと考えています。

NRAの役割の一つである「保存資料の活用」例として、今後も展示会の開催を続ける予定です。引き続きの、皆さまからのご声援をお願い申し上げますとともに、ご来場いただいた方々には誌上をもって御礼申し上げます。



▲ 幅広い来場者に喜ばれた展示会の様子

事務局からのお知らせ

1 御寄贈のお知らせとお礼

今期（2010年1月～2010年9月）も大勢の方から多数の資料（書籍・雑誌・写真・資料・地図等）を寄贈して頂きました。厚くお礼申し上げますと共に、NRAの貴重な財産として保存活用させていただきます。

寄贈者名（敬称略）

会員外：徳江 茂、鈴木幸子、小川良斎、服部武男、松下義晴、杉浦 岳、井上大令の各氏

展示会会場での寄贈：古川皓一、田中三郎、岡嶋一彦、鈴木幸子の各氏

会員：西村幸格、稲見眞一、伊東重光、山口 忍、堀 幸夫、藤井 建、伊藤博康、服部重敬の各氏
今後ともご協力、ご支援の程お願いいたします。

2 2011年定期総会のお知らせ

2011年の定期総会を2011年1月29日(土曜日)に開催します。

日時：2011年1月29日(土曜日)
13時(午後1時)より

場所：名古屋市政資料館(元地方裁判所建物)
(東区白壁1丁目3番地) 第3集会室
地下鉄「市役所」2番出口を東へ徒歩8分
(地図 案内3の場所と同じ)

3 NRA 創立5周年記念

特別講演会のお知らせ

名古屋レール・アーカイブスは今年の8月で任意団体として発足5周年を迎えました。それを記念して名古屋機関区や名古屋駅について長年にわたりご研究されてこられた西村勇夫氏に、2011年1月29日の定期総会の後でご講演をお願いしましたところ、ご快諾を下さいましたので、当日午後3時より特別講演会を開催します。皆さん方のご参加をお待ちしています。

日時：2011年1月29日(土曜日)
15時(午後3時)より

場所：名古屋市政資料館(東区白壁1丁目3番地)
地下鉄「市役所」2番出口を東へ徒歩8分、
2階 第3集会室



なお、この講演会は一般に公開して NRA の活動を理解して頂く機会としたいと考えています。

NRA・作業日変更のご案内

これまで毎月第1・第3日曜日だったものを11月から**第1・第3土曜日**の午前10時から行うことに変更します。

少しでも時間がありましたら、ご参加ください。できるだけ多くの方の参加をお待ちしています。

白井 昭の一口メモ

1 戦後、当地の鉄道趣味

戦後すぐ当地に生まれた鉄道趣味の会は、3県の「轍美会」と岡崎の大嶽十四男氏の「東海鉄道同好会」であるが、後者は間もなく轍美会に吸収された。

会員の中には、高松さんの「東京鉄道同好会」にも入っている人もあった。若手のほか下郷、岐阜の大野さん等高齢者もいた。

昭和25年ごろになると、東京の杵屋さんや田島老人、鷹司さん等が来名し、交流した。

◎ Express 18 より

轍美会の会誌 Express はザラ紙、ガリ版の手作りで、文字は限りなく小さかった。18号は昭和23年5月発行、編集：白井(名鉄)、印刷：伊藤礼太郎(国鉄)。

これは1号からあるはずで、60年前の私は終戦と共に鉄道趣味に突進したことを示している。私の弟、白井良和はまだ学生だった。会誌の現物は今後アーカイブスへ寄贈する。

◎ 昭和23年4月27日 早朝、神宮前で入換中の日車SL103(海南島テング)と名鉄デキ402が衝突、破損。SL103は鳴海と往復中。

◎ 北竜一(国鉄高岡)EXP誌に感動。今後富山区にC58全5両が転出、名古屋区のC57×

1、C51×4が富山に来る。

◎ 四日市 梶山、近鉄大阪線電車が布施に近づくと信号で止められ、奈良線の電車が先に進入して行く。大阪線電車は他人の家のように気遣いつつ上六へ向かう。

奈良線木造車の空制は全部GEだが、デボ150、モワ811のみはSMEである。

◎ Express 25 より

昭和24年7月発行、編集：白井、印刷：ダルニ一騰印堂。ガリ版を外注し、表紙は色付きにした。



岡田収一、近鉄 塩浜勤務です、よろしく。

中川浩一の東武ニュースなど。

京都 大橋弁太郎 EXP誌に写真がついて嬉しい。N115が広軌車と同色になった。省電の急行10日より上下各2本開始！！43、58のクロス車4連で、5月から色も変えるとか。汽車会社はカラフト向けのD51を制作中。

故大橋邦典、住所 大垣鉄道官舎2の2（父君と同居？） 稲沢区勤務、D52、入換の96に乗るが、カマにより調子の差がひどく、困っている。昭和24年6月から名と垣のC11で5両の快速開始！！名～垣 50分。5001～5014レ、例とし

てスハフ3217、オハ35197、オハ35433、オハ33433、オハ35200、オハフ33100のオール名ナコの6両。

◎ 昭和24年5月31日、11レのC5357（垣）を名～垣間、火を焚いた。6月、大垣区のC5348が廃車に、テンダを外して留置中。

2 昭和25年の名鉄社報より

◎ 昭和25年9月17日

新岐阜～知立～大浜港の直通特急を毎日4本新設する。大浜特急は、これから約10年、知立南の連絡線をスイッチバックで直通していた。

◎ 国鉄安城～南安城の臨時客扱い

昭和25年10月28日から11月1日まで電車による臨時客扱いを行う。名古屋で開催の国体のため。

◎ 車両番号変更の件、昭和25年10月26日付け

西尾線所属車両の番号を変更する。

サ2253、2255号をサ2251、2252号に変更

◎ 昭和25年7月28日

新舞子サマーフェアの抽選を同ステージで行い、レコード等の商品当選を決めた。

3 新聞記事より

昭和25年8月8日午後、富山地鉄富山～稲荷町間で、貨物列車のEL故障のためSLと交換し、大幅遅れで発車したところ、対向電車と正面衝突し、負傷者多数。

4 大井川鉄道OB会

このOB会は今も盛会だが、酒が回るとハーモニカという言葉の大合唱になる。戦前～戦後の大井川は貨物鉄道で、貨車の配車は全て省線との電信により、電信のだめな人は、大鉄へ勤められなかった。

新人は第一にモールスのアを一・・・（ハーモニカ）と暗記した。イは・一（イトー）である。

昔は大鉄全駅に省線の電報本があり、新金谷はシナヤ、トケ、ウヤなどは今も使っている。

※これは現在のお話です。

5 名鉄カップレ会近況

カップレ会は、東名港、西枇杷島、三柿野等の操車係の集まりで、逆入換などの猛者がいたが、今や高齢化、少数化した。これに比べ、名鉄車両OB会は今も 150 人が出席する盛況で、昨年は私のパノラマカーの記事を展覧した。次項の記事はカップレ会のお世話になった。

6 昭和 30 年の各務ヶ原線

戦後すぐの名鉄線には C58、C11、C12 などが走ったが、次の写真（いずれも撮影者は白井）は昭和 30 年の六軒～運動場の列車である。

デキ 1000 は、犬山方の砂利をト 100、ト 300 の砂利貨車で名鉄線へ散布した帰りである。（写真 1）



▲ 写真 1 SL1000が引く米軍関連貨物列車？



▲ 写真 2 デキ1000の引く砂利貨車

SL1000の方は、国鉄トム5000など米軍関係かと思われる。（写真2）

名鉄線では鵜沼側の単線に急坂があり、ELで

も雨天で重いと登坂やり直しとなる難所であった。

※ 以上のレポートの材料も全てアーカイブスに寄贈します。

7 高松琴平の電磁弁付きSME

昭和40年頃、名鉄は多くのHL車3700形を琴平に売却した。足の遅いHLを減らし、パノラマカーを増備してスピード化を図るためだった。

3700形はAMMブレーキであったが、この頃、電磁連動SMEブレーキに換装して、大幅に運転の速動性を高めた。このシステムは、その後琴平の全車に採用されたが、HSC以上に機動性が高く、乗務員もよく慣れて、そのブレーキの機動性はPCCに次ぐ感がした。

この日本技術による電磁連動SME方式の出現は、電鉄技術史でも記録に付加すべきものであり、HSC、SME Eが電磁セルフラップに対し、これは今まで生き残った非セルフラップのSMEブレーキで、日本独自の方式である。

パーツとしては非常弁はそのままに電磁弁を加え、ブレーキ弁をME18、ME20に変更している。

琴平は、長年このシステムを使い続けたが、今後はHSC又は日本に普及した電気制御に代わるであろう。

なお、高松琴平電鉄として本システムを採用した事情は、同社は戦前よりHL制御とクノールの非常直通ブレーキを用いてきたが、戦後多種の電車がなくなったため、引き通し制御回路と空制の統一、4両運転が求められ、その一環として採用されたものである。

8 名鉄初代デワ1の経歴について

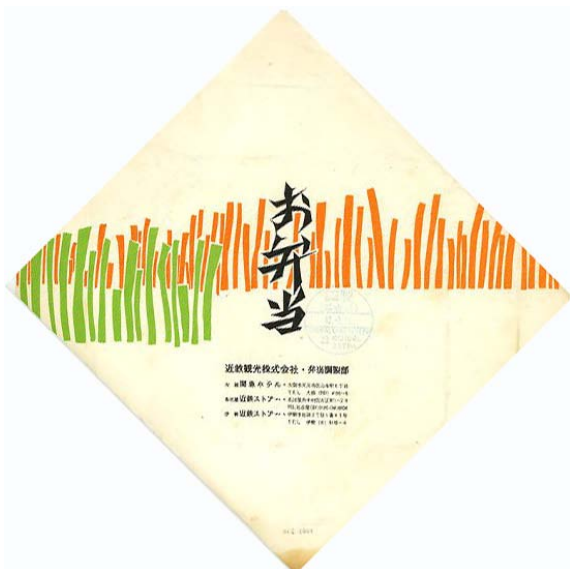
大正1年、デワ1～35を大量購入した名鉄は、のちにこれをワフ50、サ50に転用したが、高価なGE57モーター、B18コントローラの行方が不明となっている。大正7年、電装解除の頃にB21台車と電気品は名古屋市電の新車に転用の可能性もあるが、記録は見つかっていない。

駅弁掛け紙の楽しみ 3

津田和一

今回は駅弁業界の大御所、松浦商店の掛け紙をご紹介します。松浦商店の掛け紙を探していたら、近鉄の掛け紙が何枚か出てきたので、この機会にもう少し紹介することにした。

前にも述べたように私鉄の掛け紙は今迄に紹介されたことがなく、国鉄系とは一味違った楽しさがあります。



最初の 2 枚は近鉄には珍しくご飯とおかずが別々になっている駅弁で昭和 42 年 3 月のものです。その後近鉄の駅弁で二つになっているものを見たことがありません。デザインに面白みがなく、な

んとなく国鉄の駅弁のような印象を受けます。ただ、色の使い方は国鉄系よりも垢抜けしています。幕の内弁当だったのか特殊弁当だったのか全く覚えていません。多分景色に気を取られていたのでしょう。

次は前回ご紹介した沿線の観光地をあしらった掛け紙と同工異曲のものです。色の使い方が明るく、志摩の海や花の頃から新緑の奈良の美しさなど近鉄沿線の明るさを感じさせるものです。この上の駅弁は昭和 47 年 5 月のもので、下のものは昭和 48 年 10 月のものです。



殆ど同じですが、良く見ると下のものは右上に遷宮伊勢の会というロゴが入っています。多分、売上げの一部が遷宮の費用として寄付されるのでしょう。

これが国鉄であれば、特定の宗教に加担するとして認められなかったでしょうが、そこは私鉄でしかも伊勢神宮は近鉄にとって福の神であると公言して憚らない会社ですから堂々としたような駅弁が売られることになったものと思われます。中味は普通の幕の内弁当です。



次の昭和49年8月のお弁当も沿線観光地のイラストですが、全体に明るく遊びに出かけるのだという雰囲気を十分に感じさせてくれます。



とり弁当は平成4年6月のものです。イラストの

鶏が何とも楽しく、色づかいの上手さと相まってお弁当も美味しいような気がしてくるのが不思議です。



実際には松浦商店で売っている鶏弁当と余り変りはありませんが、松浦商店の駅弁はもともとおいしく(競争が厳しいからか)、近鉄の駅弁もおいしいものでした。



もう一つ、この「季節のおべんとう」は平成7年2月のものですが、「かやくごはん」と銘打っているもので、美味いかやくごはんが使われた幕の内

弁当です。但し、掛け紙のデザイン、色はそれほどではなく、もう少し工夫があっても良いのではないのでしょうか。

駅弁は近年、掛け紙を使ったものが減って、代って上ぶたに図柄が印刷されたものが多くなっています。そのせいか、デザイン・色づかい共に質が低下してきているように思われます。

昔のようなローカルカラーにあふれた素朴であっても、ほのぼのとした旅情を感じさせるものが減ってしまい、残念な気がします。駅弁も名前だけで、実際には車内販売になり、それも大手の企業の独占になって来ているためなのでしょう。そうはいっても亜幹線クラスの車内販売は大手の大量生産品ではなく、地元の駅弁を積んでいることが多く、嬉しくなります。

展示会雑感

今年で3回目の展示会が盛況のうちに終了しました。(1面に報告が載っています) 展示会も3回目ともなると、楽しみにして去年も来たとか、案内状を持ってこられる方など、大勢の方に楽しんでもらえた様子を見ると、準備の苦労も満足に変わっていきます。テーマを決めて何を展示するかから始まって、それらの資料を集めて、どう展示するかを話し合って準備をするのは本当に大変です。一番忙しくなる夏が今年も酷暑で、クーラーもないNRAで汗だくになって大勢の会員が献身的に作業をして頂いたのは本当に感謝、感激でした。

一般のごく普通の市民の方に来ていただいて楽しんでもらうにはどうすればよいか、ということが最も大切なことですが、一方では鉄道のことを知らない方に時間と労力をかけて展示をする意義があるのだろうかという気持もあります。

それでも、あえて展示会を行うのはやはり社会とつながった、別の言い方をすると社会の中での鉄道愛好家である必要があると考えている

からです。会員の稲見さんも同じような考え方を持っておられ、同氏のブログに次のようなコメントを載せておられます。皆さんにも共感を持って頂けるのではないかと考え、了解を得て関係のないところを少々省略した形で紹介させていただきます。

「行楽と鉄道の風景」展

私は、「鉄道友の会」をはじめとした鉄道趣味の団体に所属したことは今年の春まではありませんでした。それが今年の夏、縁があつて今は、「NPO法人名古屋レール・アーカイブス」の会員になっています。この会の目的は一言でいえば鉄道写真・各種資料・パンフレット・乗車券・書籍等の保存と、その活用。そして毎年9月、収集した資料・写真を生かした展示会を行っており、その第3回目を今日から来週の水曜日まで名古屋市栄の「ギャラリーチカシン」で開きます。今年のテーマは「行楽と鉄道の風景」。皆様、是非お立ち寄りください。

「NPO法人名古屋レール・アーカイブス」は、鉄道趣味の団体としては珍しいNPO法人です。その活動として、鉄道に関する写真や書籍・資料等を集めることが第一ですが、やはりその活用が大事なテーマとなっています。

そこで今回の展示会に繋がる訳です。写真は、名鉄電車の「観光特急」の写真を集めたものでこのように写真も多数展示し



ていますが、勿論、写真以外にも様々な資料を

展示しています。

個人の撮影・収集の蓄積は、個人の手元だけにあってもそれは次の世代に伝わりません。そこで個人の蓄積を多数の方から『会』にご寄贈頂き、そして『会』として体系的に展示することで各鉄道会社の歴史のみならず、社会や庶民の生活の変遷までうかがい知ることができるようになります。

『会』は「こんなものを集めました」と言った収集家の自己満足型集団ではありません。

「鉄道愛好家」の皆さんに名古屋・栄まで足を運んでいただき、是非、貴重な写真や資料の数々を見ていただき「趣味の世界」を少しだけ超え単に“懐かしい”にとどまらない世界をご堪能頂ければ幸いです。※写真は昨日の準備風景です。(2010年09月02日付 中京テレビブログ：鉄研「稲見駅長の鉄道だよ人生は！！」より)

ここで述べられているように自己満足型集団であってはならないということが鉄道愛好家の社会的地位を高め、社会に貢献できる組織となるのでしょう。



さて、展示会を開催していて意外に思うのは、一般市民が対象であるので当然と言えば当然なのですが車両写真には殆ど興味を持たれず、生活の中に溶け込んだ情景写真が人気があること、(このことは最近鉄道雑誌でも取り上げられるようになってきて、鉄道趣味も大人になってきたことが感じられます) 今年初めて展示した駅

スタンプがけっこう人気があること、切符の展示をすると記念切符よりも、ふつうに毎日使っている切符や定期券、回数券の方が興味を持たれること、駅弁の包み紙も(展示してみるか…) 軽い気持で展示をしてみると案外関心があったり、何時の場合でも非常に人気があったのが鳥瞰図をはじめとした沿線案内で、一般の方々と鉄道ファンとの間には大きなギャップがあることが見て取れます。一般の方に車両写真に興味を持ってもらうのは当然のことながら無理な話で、鉄道愛好家の方が鉄道に対する考え方ももっともっとフレキシブルにする必要があると言えます。

それから会場担当者と話をする(来場者から担当者へ声をかけられる場合と担当者側から声をかける場合を含めて) ことが楽しみであるというケースが多くて、コミュニケーションの大切さを痛切に感じます。

3回にわたる会場担当者として感じることは稲見さんも言うておられるように、NRAの趣旨から言っても自己満足型集団ではなく、社会生活の中の鉄道愛好家であることを理解して、来年の展示会の内容を考えた展示会を行わなくてはならないことであろうと考えています。

会員の皆さんも、この趣旨を理解して少しの時間でも準備作業に加わり、あるいは展示会の会場係に参加していただきたいと考えています。また、展示会とは関係はありませんが、一人でも多く会員になっていただくように会員一人一人が努力して下さいようお願いします。

NRA NEWS No.8 2010.11.6

編集及び発行

NPO法人名古屋レール・アーカイブス

〒453-0012 名古屋市中村区井深町1番1号

新名古屋センター 本陣街 B1224号